

第24回 西日本国際財団アジア貢献賞審査委員会ノミネート団体・個人一覧

■いっしょき学校を作いもんそ会

会長:弓場 秋信 氏

設立:1997年

活動地域:鹿児島県、カンボジア

「学びたい子どもに、学ぶ場を創る」「生きる力としての現地教育活動」を活動理念として、カンボジアの中学校、小学校のインフラ整備を行うほか、現地キーパーソンの育成として鹿児島県内に現地教師を招聘。支援内容は現地の意向を確認しながら進め、効果的な活動は現地でモデル活動として周辺に展開するなど「双方向による活動」を25年間にわたり続けている。

■一般社団法人沖縄市国際交流協会

会長:島袋 イナミルイス リカルド 氏

設立:1990年

活動地域:沖縄県

沖縄の国際色豊かな街づくりと歴史と文化を提唱するとともに、日本人と外国人との多言語交流および外国人の生活サポートを行うことを目的として設立。県民と外国人の文化体験交流、外国人の情報交換の場を提供、子育て支援、生活相談など、30年以上にわたり活動を続けている。

■Global Reporter in Japan

会長:柳 基憲 氏

設立:2010年

活動地域:九州

海外からの留学生が卒業後の就職先等に九州を選ばず定着しないことを課題ととらえ、留学生向けの無料就職相談会、オンラインジョブフェア等の事業を行うことで、働きがいがあり、活躍できる場所を地元九州で提供するとともに、地元の活性化にも繋げたいとの理念のもと、活動を続けている。

■馬関奇兵隊

代表:濱崎 康一 氏

設立:2001年

活動地域:山口県、韓国、ベトナム

全国に多数ある「よさこい」チームの中で、唯一海外との定期交流を行っている団体。韓国・釜山との交流を続けるなかで、2008年には現地に姉妹チームを結成したほか、ベトナム・ハノイとも「よさこい」交流を行っており、下関市の活性化、観光PRにも大きく貢献している。

■牟田 慎一郎(むた しんいちろう) 氏

活動開始:1990年

活動地域:福岡県、スリランカ

1980年代の海外出張時に、海外の人々と比べて日本人の人間としての豊かさが不足していることに気づき、「心の豊かさ」を得るためには「多くの人と出会うこと」が必要と考えた。そこで、スリランカの子どもの教育里親となったことを手始めに、現地に奨学金協会を設立、大学生に継続して奨学金を支給しているほか、地元福岡では20年以上にわたり、毎週異文化交流セミナーを継続開催するなど、個人としては驚異的な数の国際交流活動を実践している。

※上記5団体・個人は、受賞3団体とあわせて第24回アジア貢献賞に推薦された10団体・個人の中から候補者選考委員会(第1次審査)にて審査委員会の審査対象としてノミネートされた先です。(五十音順)

第18回西日本国際財団アジア未来大賞審査委員会ノミネート団体・個人一覧

■石原 資展(いしはら よしのり) 氏

活動開始:2012年

活動地域:佐賀県、マレーシア、台湾、タイ

佐賀市の特定郵便局長として地元の小学校への出前授業を行い、手紙の書き方を指導するなかで、日本の子どもたちと海外の子どもたちとの手紙交流を発案、2014年からマレーシアの子どもたちとの手紙交流を開始。この取組みを「ペンパライズ」と名付け、対象を中高校生にも拡大、相手国も台湾・タイへと広げ、子どもたちに「形のあるコミュニケーション」の喜びを体感させることを目指し、活動している。

■ミャンマー愛の家小学校

代表者:チョチョカイ氏

活動開始:2013年

活動地域:沖縄県、ミャンマー

ミャンマー出身のチョチョカイ氏は、2005年に国費留学生として来日。日本の教育法を母国で実践したいと考え、2013年にヤンゴン郊外の農村地域に同国初の私立学校である「愛の家小学校」を設立。ミャンマーではそれまで実施されていなかった情操教育や衛生教育などを取り入れ、現地の農村地帯の子どもたちが将来自立できるようにしていくことを目指している。

※上記2団体・個人は、受賞2団体とあわせて第18回アジア未来大賞に推薦された5団体・個人の中から候補者選考委員会(第1次審査)にて審査委員会の審査対象としてノミネートされた先です。(五十音順)